

# ナブテスコ株式会社

## 2025年12月期 決算説明会資料

2026年2月19日

当社は2025年7月31日に「油圧機器事業の会社分割（簡易吸収分割）ならびにComer Industries S.p.A.との株式譲渡契約および株主間契約締結のお知らせ」にて公表のとおり、油圧機器事業の会社分割ならびに同事業を継承する子会社の株式譲渡に関する決議しました。

そのため油圧機器事業をIFRS第5号に基づき第3四半期連結会計期間より非継続事業に分類しています。

以降の開示は以下の区分でご説明します。

会計期間	損益計算書の会計項目				
	売上高	営業利益	税引き前利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	当期利益
①2024年12月期通期実績 ②2025年12月期通期実績 ③2026年12月期通期業績予想	継続事業のみ			継続事業＋ 非継続事業	

## 1. 中長期的な成長に向けて

CEO 木村 和正

## 2. 連結業績概要および見通し

常務執行役員 企画 経理 情報システム コーポレート・コミュニケーション管掌  
碓井 浩

## 3. 補足資料

# 1. 中長期的な成長に向けて

CEO 木村 和正

CMPの成長加速

油圧機器事業分割後のCMP事業の成長加速へ

収益性の改善

Project 10 2027年に達成を目指す

事業ポートフォリオ  
の強化

MROを基盤とした安定収益の確保と  
成長市場での売上拡大を実現するポートフォリオの構築

## ■主に可搬重量20kg以上の溶接・塗装ロボット向けで高いシェアを獲得

可搬重量

6 < 20kg

20 < 80kg

80 < 230 kg

230kg <

### RV™

2段減速機構型プラノセントリック方式  
✓ 高剛性、高精度、長寿命

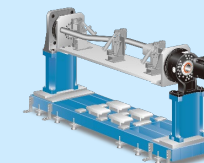
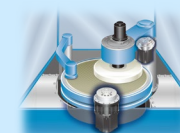
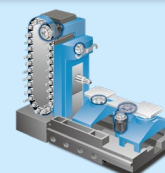


溶接（アーク、レーザー）

溶接（スポット）・塗装

物流・ハンドリング

工作機械、FPD\*1、半導体製造装置、ポジショナー、AGV\*2向け、アンテナ



\*1 Flat Panel Display, \*2 Auto Guided Vehicle,

## ■ 20kg以下の小型ロボット向けで手首軸含めた6軸セット提案、コボット、ヒューマノイドへの参入で売上拡大を図る

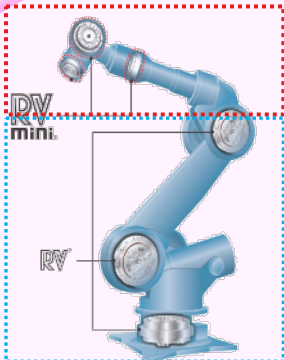
可搬重量

6 < 20kg

20 < 80kg

80 < 230 kg

230kg <



**RVmini®**

波動歯車方式

✓ 軽量コンパクト



3C\*3 / 半導体

コボット（協働ロボット）

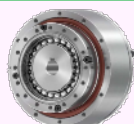
スカルロボット

工作機械、FPD\*1、半導体製造装置、ポジショナー、AGV\*2向け、アンテナ

**Monocrank®**

センタークランク式プラノ  
セントリック方式

✓ 耐衝撃性が強く歯とびしない



ヒューマノイド

**RV™**

2段減速機構型プラノセントリック方式

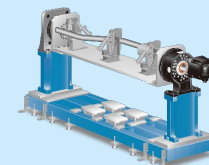
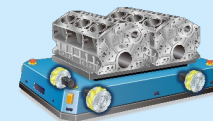
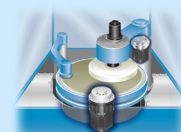
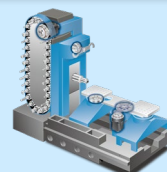
✓ 高剛性、高精度、長寿命



溶接（アーク、レーザー）

溶接（スポット）・塗装

物流・ハンドリング



\*1 Flat Panel Display, \*2 Auto Guided Vehicle, \*3 3C : Computer, Communication and Consumer electronics.



ロボット業界で実績を重ね、鍛えられた精密減速機RV™の信頼性技術を波動歯車減速機へ展開！

## 高信頼性を コンパクトに RVmini®

精密減速機RV™に  
新しいラインナップが登場

### ✓ 動的評価技術

ロボット動作を模擬した評価により、急加減速、複合荷重で仕様値を確認

### ✓ 精密製造技術

高精度な部品マッチング技術により、品質再現性の高い製品を提供

### ✓ 専用グリース

RVmini®専用グリースを同時開発、高速・高頻度運転でも信頼性を確保



©Nabtesco

## Monocrank®シリーズ 開発中

高剛性×高出力密度を実現  
ロボットをもっと軽く、  
もっとコンパクトに

### ✓ 小型・軽量

最高クラスの高出力密度を実現し、ロボットの小型・軽量化に貢献します。

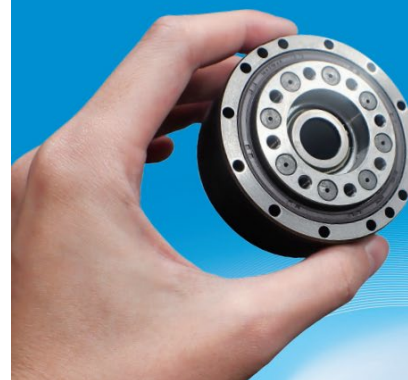
### ✓ 高剛性

精密減速機RV™の持つ高い剛性を活かし、ロボットの転倒や衝突における減速機の破損リスクを低減。

### ✓ ラチェッティングなし

歯のかみ合い数が多く、力を分散させる構造のため、歯飛びがなく、大トルクでも滑らず確実に駆動します。

【主な用途例】  
ヒューマノイドロボット



※イメージ  
©Nabtesco



## ■ Project 10始動以降利益率は着実に改善。

CMP、ACBの利益率改善施策の実行により、2027年に10%以上の営業利益率達成を目指す

### 更なる利益率改善に向けた施策

#### CMPセグメント

##### 【要因】

- ・ ロボット以外のFA分野での売上遅れ

##### 【対策】

- ・ 半導体製造装置や物流分野等成長分野向けでの拡販

#### ACBセグメント

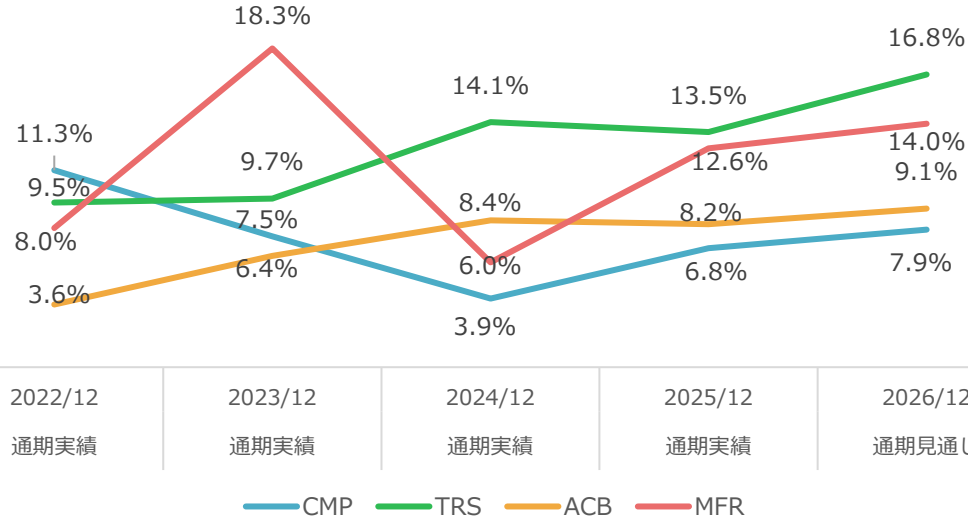
##### 【要因】

- ・ 海外ドア事業の収益性改善に遅れ

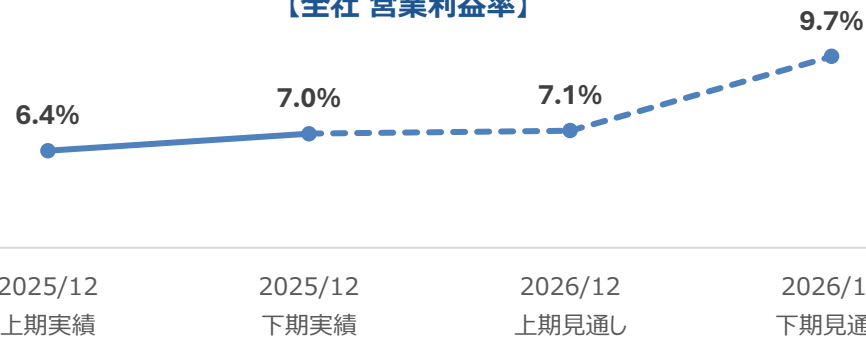
##### 【対策】

- ・ 海外PDビジネスの見直し
- ・ MROの強化

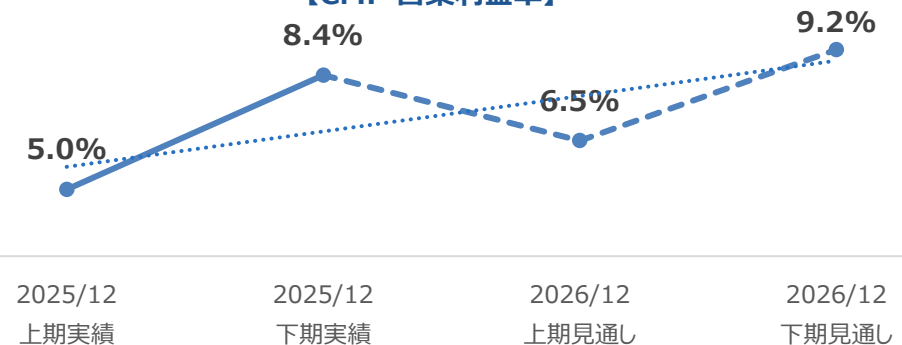
セグメント営業利益推移



【全社 営業利益率】

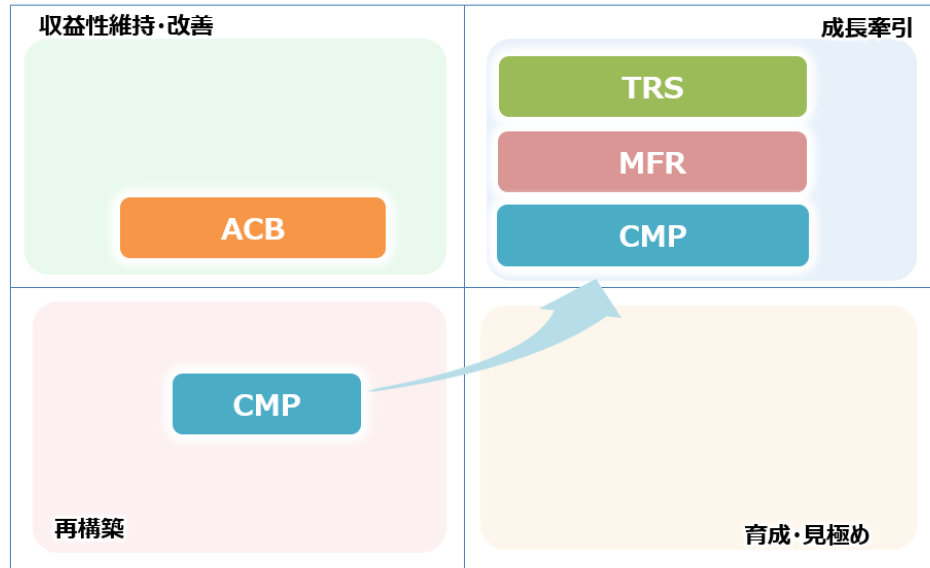


【CMP 営業利益率】



\*2025年度の上期下期実績に関しては監査前の数字であるため、今後変更になる可能性があります。

## ■ MROを基盤とした安定収益の確保と成長市場での売上・利益拡大を実現するポートフォリオの構築



### 2025年実績：ポートフォリオのスリム化（選択）

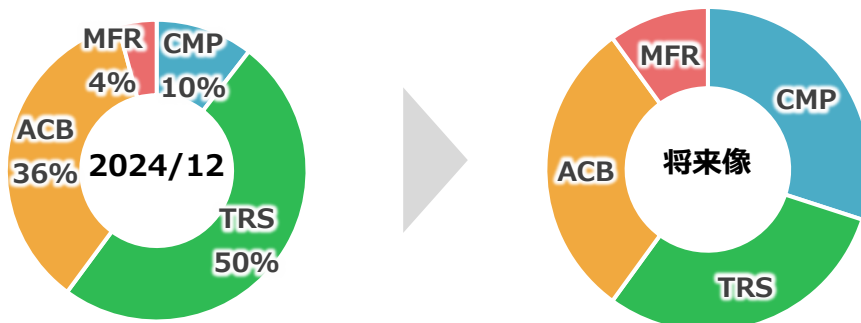
- ・油圧機器事業の会社分割とベストオーナーへの株式譲渡
- ・鉄道車両用機器の欧州ドア子会社売却
- ・設置工事込みの海外プラットフォームドア事業から撤退

### 2026年のアクション：既存ポートフォリオの強化（集中）

- ・新製品投入によるCMPの成長加速
- ・航空機器での開発投資の前倒しや製品ラインアップ拡張
- ・船用機器の生産能力増強・開発投資の積み増しによる成長機会確保

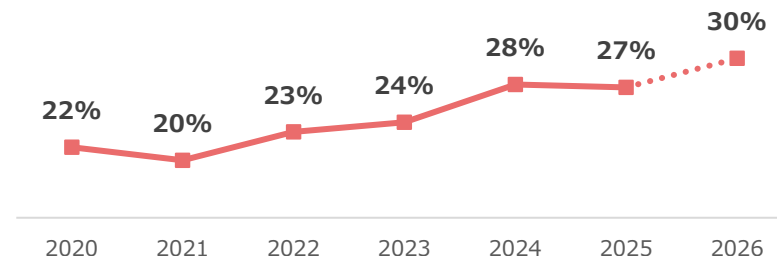
## ■ 目指すもの

【利益構造の転換】  
利益のリバランスを図る



### 【MRO売上比率 対全社売上高】

MRO強化および事業ポートフォリオ見直しによる安定収益拡大

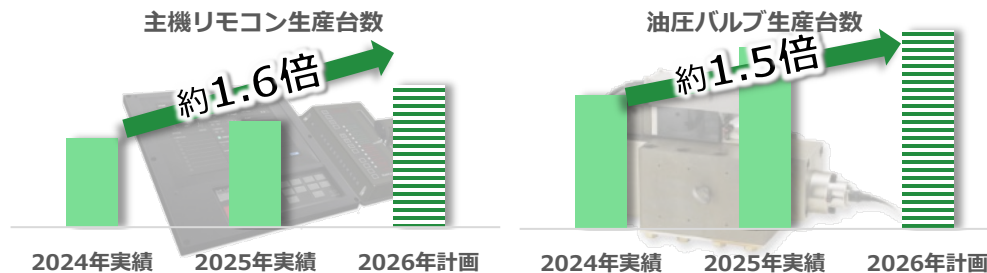


※2025年までは油圧機器を含んだ売上高を使用しています。2026年は2月12日に開示した計画に基づいています。

## <船用機器> 需要拡大に対し能力増強を行い、将来動向を見据え新製品開発により更なる成長を目指す

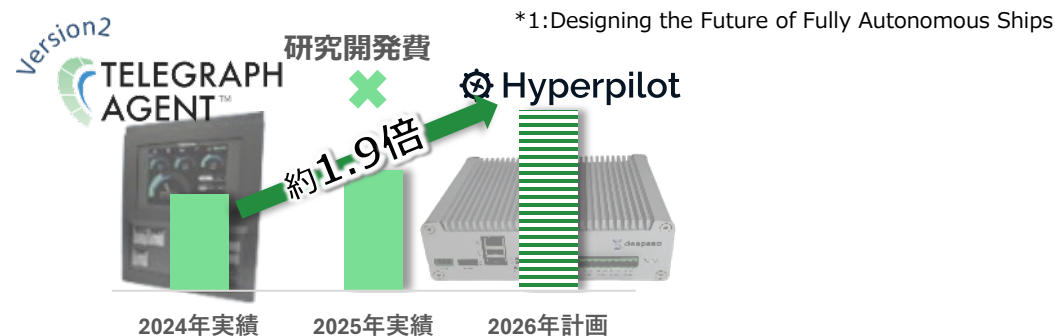
### ■能力増強

- ・日中韓の3極で継続的な売上拡大を目指し能力増強



### ■開発投資の強化

- ・自律運航技術の早期実現 (DFFAS+\*1、国交省：内航船変革補助事業、Telegraph Agent & Hyper Pilot 連携)
- ・船舶の脱炭素化に向けた代替燃料エンジンへの対応
- ・商船仕様推進器制御製品の防衛向け展開



## <航空機器> 市場拡大に加え、開発投資により対応可能製品を増やすことで更なる成長を目指す

強化エリア

主要製品	防衛	民間機OEM	民間機MRO
飛行操縦システム	①	③	④
電源システム	○	○	-
エンジン関連機器	○	-	-
新分野	②	-	-

### 防衛① & ②

- ① 飛翔体向け製品開発や次期主力戦闘機受注に向けた取り組み
- ② 防衛装備品の能力増強に着実に応えるための製品ラインアップ拡充

### 民間機OEM③

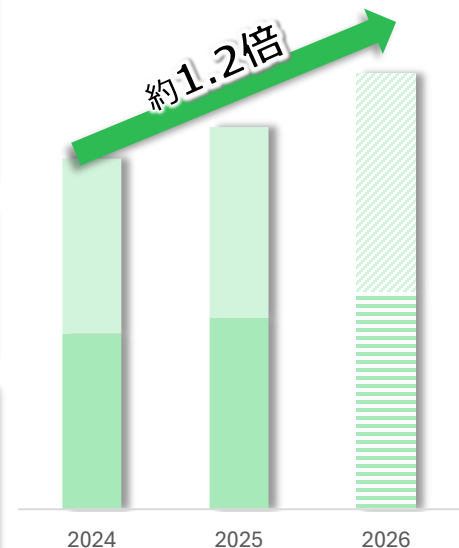
- ・次期民間航空機向けフライトコントロールアクチュエータ開発の前倒し

### 民間機MRO④

- ・737MAXでのMRO強化
- ・777Xローンチに向けたサービス展開

航空機器 売上実績と計画

■ 防衛向け ■ 民間向け



## 2. 連結業績概要および見通し

常務執行役員 企画 経理 情報システム コーポレート・コミュニケーション管掌  
碓井 浩

## 2. 2025年業績及び2026年見通し概要

### 2025年12月期通期

	実績	前期比	計画比
売上高	<b>3,079</b> 億円	<b>+10%</b>	<b>+2%</b>
営業利益	<b>207</b> 億円	<b>+60%</b>	<b>-0%</b>
営業利益率	<b>6.7%</b>	<b>+2.1pt</b>	<b>-0.2pt</b>

### 2026年12月期通期

	業績予想	前期比
売上高	<b>3,270</b> 億円	<b>+6%</b>
営業利益	<b>277</b> 億円	<b>+34%</b>
営業利益率	<b>8.5%</b>	<b>+1.7pt</b>

#### 2025年12月期 通期

- TRSとCMPが好調に推移し概ね計画通り
- 鉄道車両用機器の欧州子会社に係る関係会社整理損失を計上(約13億円)
- 舶用機器事業子会社のDeep Sea社(ギリシア 2023年7月買収)でのれんの減損(約10億円)計上

#### 2026年12月期 通期

- TRS 航空機器、舶用機器で更なる好調を見込む
- CMP 精密減速機の受注は2025/1Q以降、4四半期連続で回復
- 株主還元方針に基づき増配



## 2-1. 2025年12月期実績

## ■ 前期比 増収増益

(単位：億円)

	2024/12 通期実績 (A)	2025/12 通期実績 (B)	前期比 増減額 (B-A)	前期比 増減率 (B/A-1)
売上高	2,805	3,079	275	10%
営業利益	129	207	78	60%
(営業利益率)	4.6%	6.7%	2.1pt	-
税引前利益	138	217	79	57%
親会社の所有者に帰属する当期利益	101	157	56	55%
基本的一株当たり当期利益 (円)	84.25	131.56	47.31	56%
ROIC	3.0%	4.4%	1.4pt	-
ROE	3.8%	5.8%	2.0pt	-

2025/12 通期計画(10/31) (C)	計画比 増減額 (B-C)	計画比 増減率 (B/C-1)
3,007	72	2%
208	-1	-0%
6.9%	-0.2pt	-
208	9	4%
149	8	5%
124.95	6.61	5%
4.6%	-0.2pt	-
-	-	-

## 【為替前提】

USD	152.24	149.78
RMB	21.28	20.94
EUR	164.36	169.53
CHF	172.70	181.13

143.74
19.99
158.62
168.76

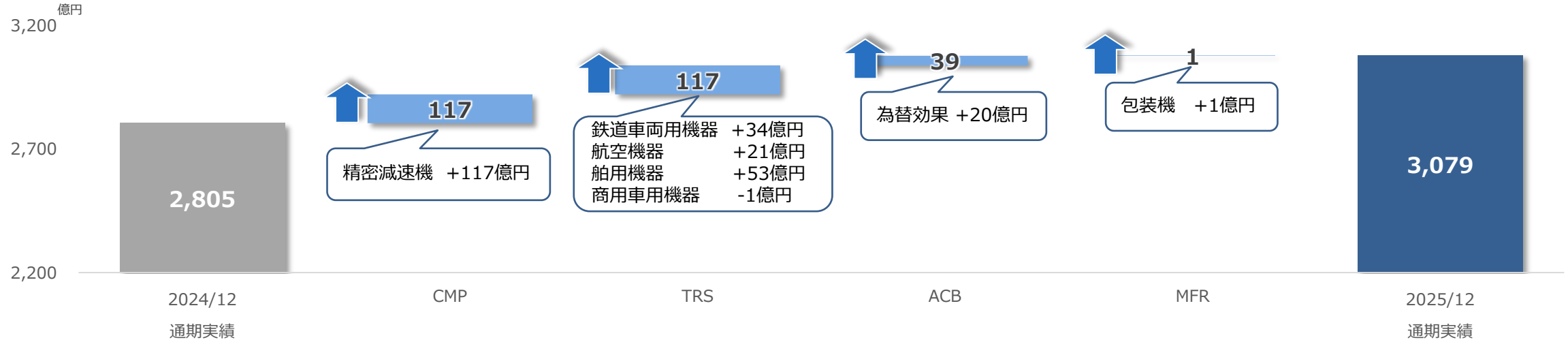
2-1-2. 2025年12月期 連結実績(セグメント別)

(単位：億円)		2024/12 通期実績 (A)	2025/12 通期実績 (B)	前期比 増減額 (B-A)	前期比 増減率 (B/A-1)
コンポーネント ソリューション (CMP)	売上高	676	793	117	17%
	営業利益	27	54	28	103%
	(営業利益率)	3.9%	6.8%	+2.9pt	—
トランスポート ソリューション (TRS)	売上高	887	1,005	117	13%
	営業利益 (営業利益率)	125 14.1%	136 13.5%	11 -0.6pt	9% —
アクセシビリティ ソリューション (ACB)	売上高	1,068	1,107	39	4%
	営業利益	90	91	1	1%
	(営業利益率)	8.4%	8.2%	-0.2pt	—
マニファクチャリング ソリューション (MFR)	売上高	173	174	1	1%
	営業利益	10	22	12	110%
	(営業利益率)	6.0%	12.6%	+6.6pt	—
本社又は消去		-123	-96	27	22%
連結合計	売上高	2,805	3,079	275	10%
	営業利益	129	207	78	60%
	(営業利益率)	4.6%	6.7%	+2.1pt	—

2025/12 通期計画 (10/31) (C)	計画比 増減額 (B-C)	計画比 増減率 (B/C-1)
790	3	0%
54	0	0%
6.8%	±0.0pt	—
977	28	3%
142	-6	-4%
14.5%	-1.0pt	—
1,052	55	5%
94	-3	-3%
8.9%	-0.7pt	—
188	-14	-7%
21	1	4%
11.2%	+1.4pt	—
-103	7	-7%
3,007	72	2%
208	-1	0%
6.9%	-0.2pt	—

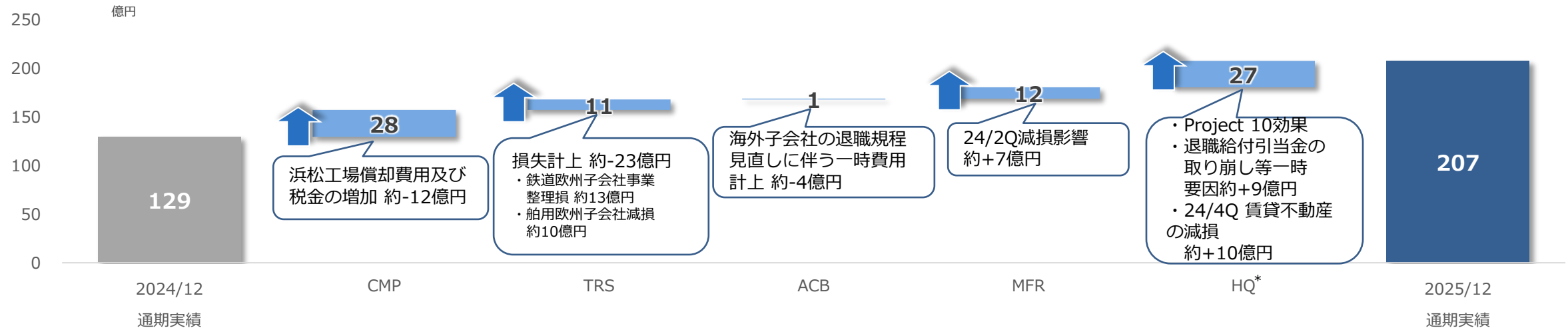
## 売上高

■精密減速機、船用機器、鉄道車両用機器、国内自動ドアの需要が堅調に推移し増収



## 営業利益

■増収による増益に加え、Project 10効果により増益



\*全社又は消去

## ■ 油圧機器事業の非継続事業化に伴い売却目的で保有する資産に関する項目が追加

(単位：億円)	2024/12 期末 2024年12月31日	2025/12 期末 2025年12月31日	差異
資産	4,455	4,640	184
（現預金等）	745	733	-11
（売上債権）	921	786	-135
（棚卸資産）	534	528	-5
（売却目的で保有する資産）	－	437	437
（非流動資産）	2,165	2,076	-89
負債	1,583	1,752	169
（借入金）	319	450	131
（売却目的で保有する資産に直接関連する負債）	－	123	123
資本	2,873	2,888	16
（非支配持分）	172	169	-3
親会社の所有者に帰属する持分	2,701	2,719	18
親会社所有者帰属持分比率：	60.6%	58.6%	-2.0pt



## 2-2. 2026年12月期見通し

## ■ 着実に利益を積み上げ増収増益の見通し

(単位：億円)	2025/12 通期実績 (A)	2026/12 通期見通し (B)	前期比 増減額 (B-A)	前期比 増減率 (B-A)
売上高	3,079	3,270	191	6%
営業利益	207	277	70	34%
(営業利益率)	6.7%	8.5%	1.7pt	-
税引前利益	217	280	63	29%
親会社の所有者に帰属する当期利益	157	176	19	12%
基本的一株当たり当期利益（円）	131.56	150.19	18.63	14%
ROIC	4.4%	5.8%	1.4pt	-
ROE	5.8%	6.5%	0.7pt	





\*2025年は鉄道車両用機器事業での子会社の譲渡に伴い税効果会計を適用したことにより、法人税率が低くなっています。

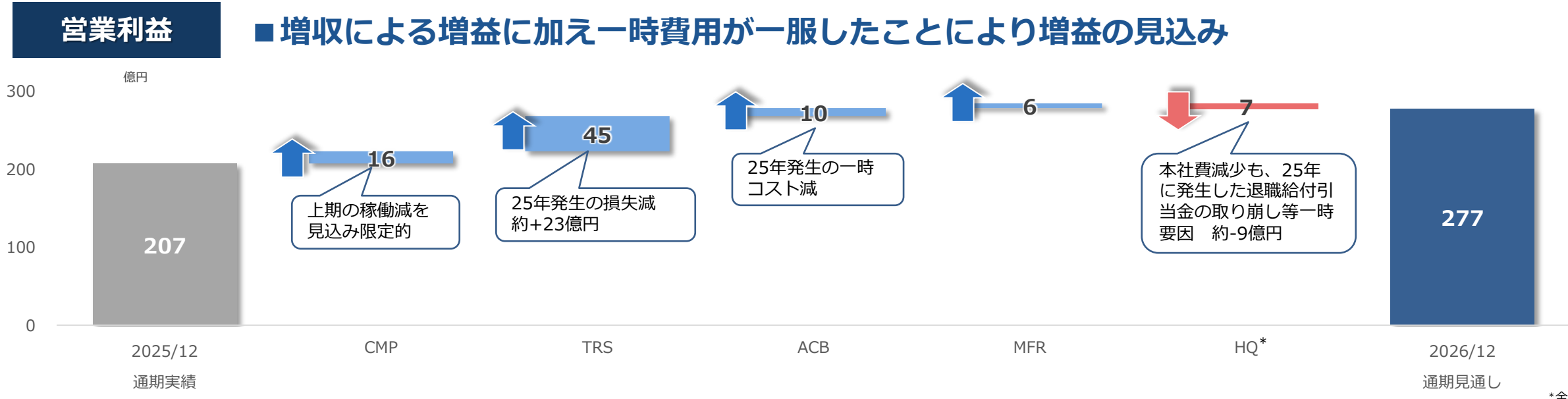
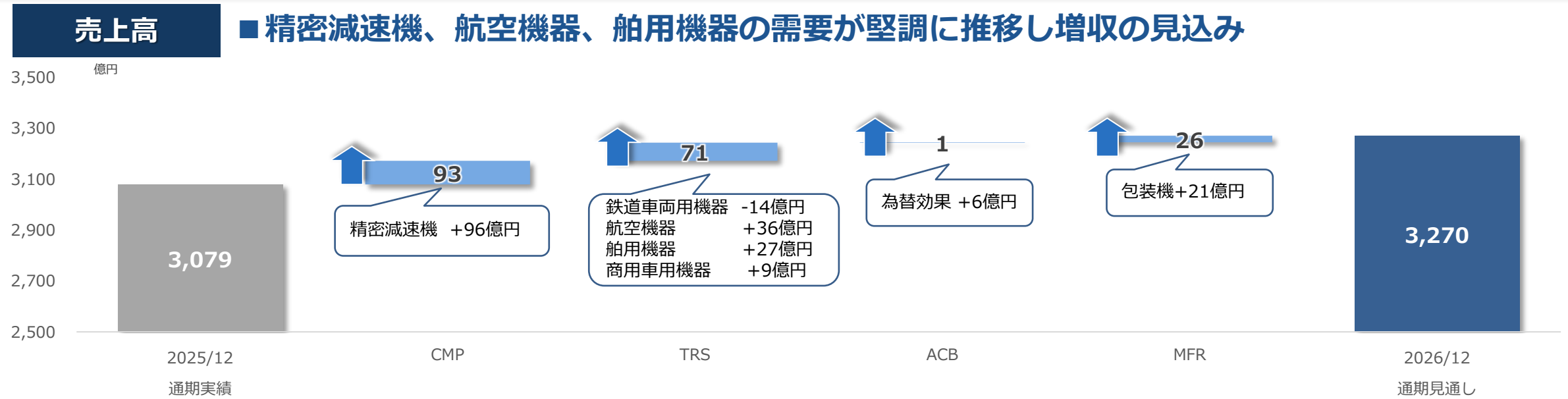
2026年は油圧機器事業の譲渡に伴う法人税の発生を見込んでいることから、法人税率が高くなる見込みです。

## 【為替前提】

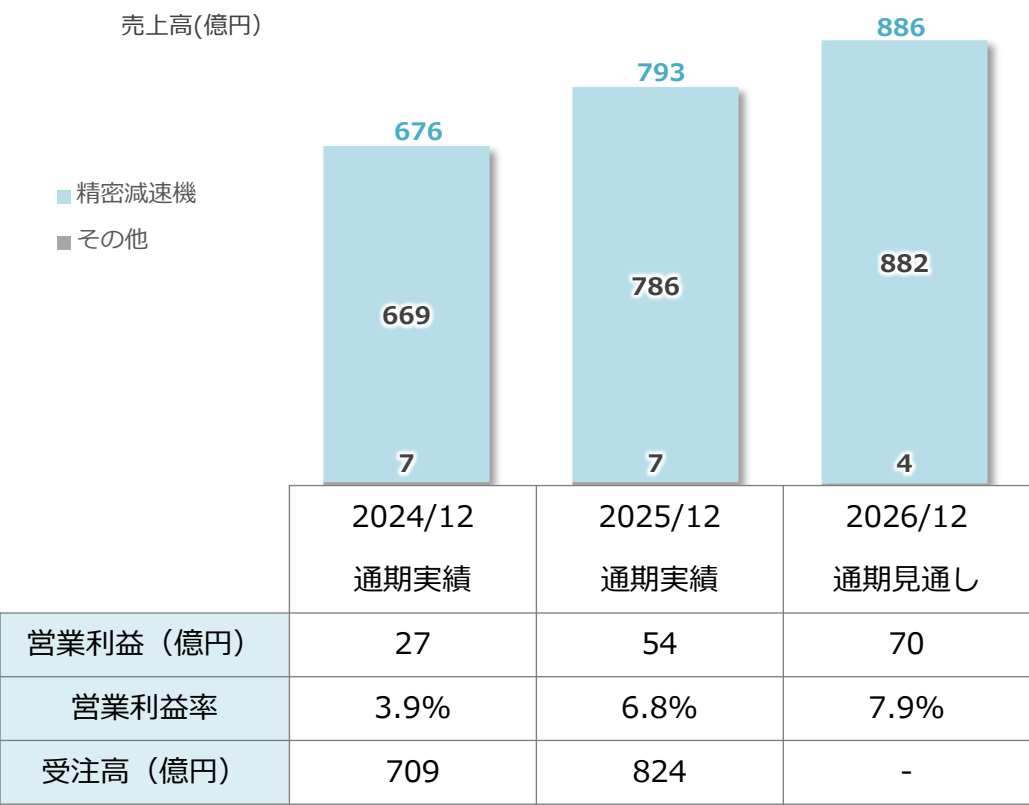
USD	149.78	145.00
RMB	20.94	20.50
EUR	169.53	170.00
CHF	181.13	185.00

(単位：億円)

セグメント	市場環境		2026/12 通期見通し	前期比 増減額
コンポーネント ソリューション (CMP)	自動車関連で設備投資の回復が継続することにより、産業用ロボット向け及び一般産業向け需要は下期以降に回復する見込み		売上高	886
			営業利益	70
			(営業利益率)	7.9%
トランスポート ソリューション (TRS)	【鉄道車両用機器】国内の新車は端境期、海外での新規プロジェクトの納入が一服 【航空機器】防衛予算の拡大や民間航空機の生産増加が継続する見込み 【船用機器】新造船・海運市況共に好調継続 【商用車用機器】国内新車は底打ち、東南アジア市場も最悪期を脱する見込み		売上高	1,076
			営業利益	181
			(営業利益率)	16.8%
アクセシビリティ ソリューション(ACB)	【自動ドア】国内は下期以降建物の新規竣工が一服する見込み 海外は安定継続 【PD】国内はバリアフリー法に基づき設置需要が堅調 海外は需要堅調も設置工事付き案件からは戦略的に撤退		売上高	1,108
			営業利益	101
			(営業利益率)	9.1%
マニファクチャリング ソリューション(MFR)	【包装機】国内は食品関連を中心に設備投資需要が堅調 海外は欧州での投資需要回復を見込む		売上高	200
			営業利益	28
			(営業利益率)	14.0%



25年比 増収 ↗ 増益 ↗



■ セグメント業績（前期比）

【2025年実績】

事業	業績実績
精密減速機	【ロボット向け】産業用ロボットの完成在庫水準が適正化 中国/韓国のEVメーカーを中心に投資案件があり増収
	【ロボット以外】米国関税影響による投資の様子見が継続し前期並み
営業利益	2024年8月から稼働開始した浜松工場の償却費負担があるも、 Project 10効果および増収により増益

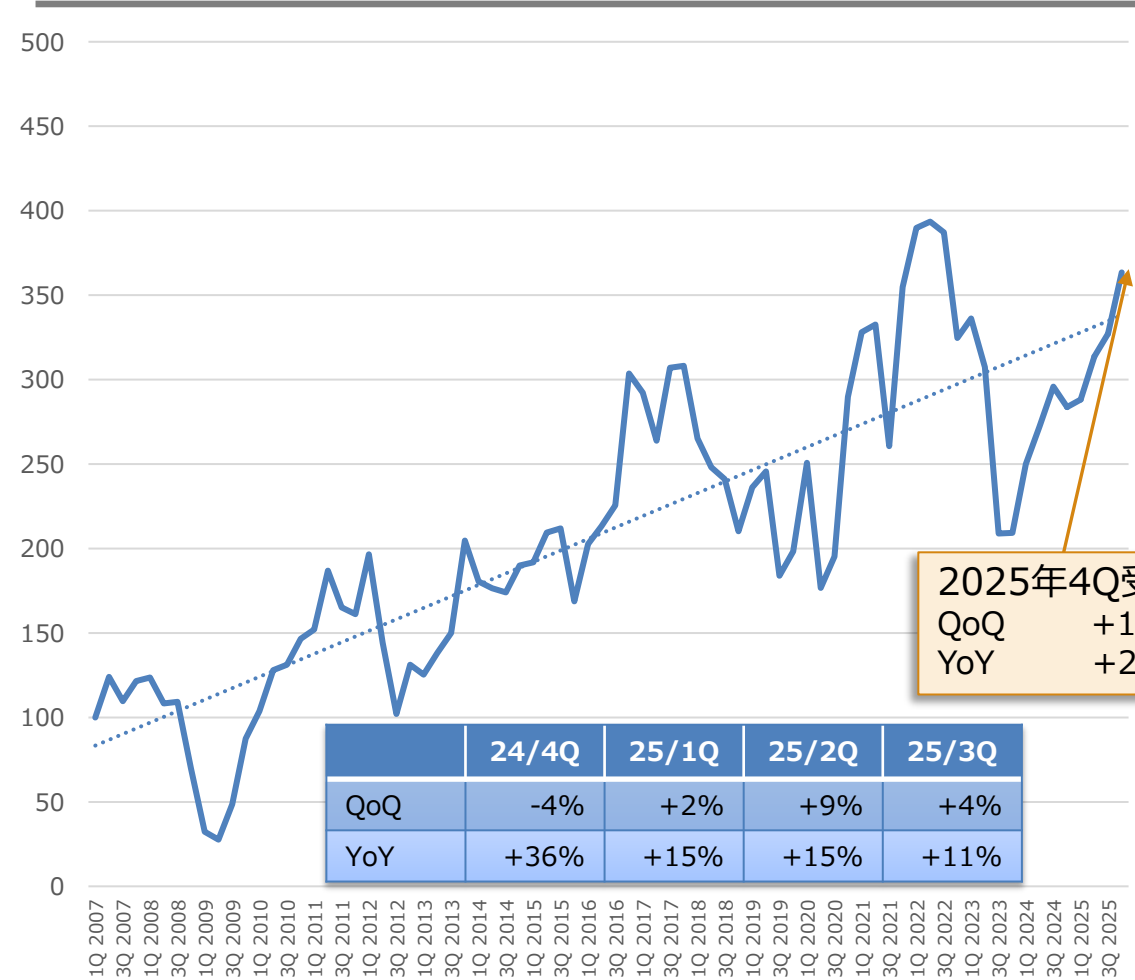
【2026年見通し】

事業	業績見通し
精密減速機	【ロボット向け】中国・韓国での小規模な投資案件が継続することに加え、 欧米でも設備投資が回復し増収の見込み
	【ロボット以外】半導体製造装置やAGV/AMRの拡販を見込む
営業利益	増収による増益や、継続的な価格転嫁を行い増益を確保



■ 2025年4Qの受注は4四半期連続で回復。今期中に過去最高の受注額となる見通し。

精密減速機 受注推移

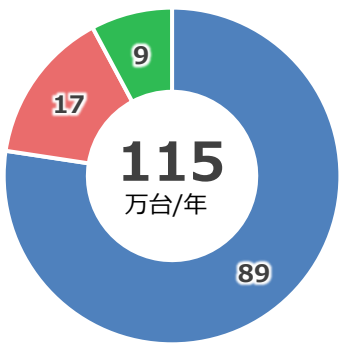


2007年1Q受注を100とした指数

生産能力と稼働率

■ 生産能力

2024/3Q～現時点



■ 各工場の稼働状況

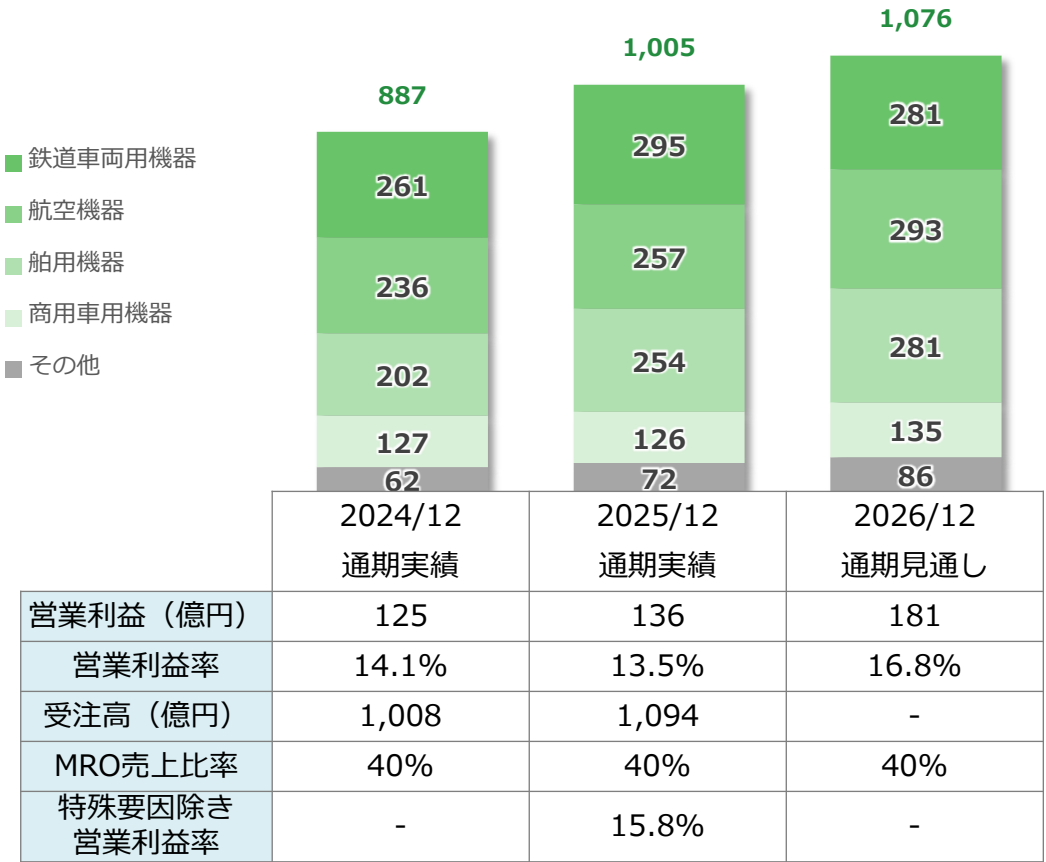
工場	稼働率			
	25/1Q	25/2Q	25/3Q	25/4Q
津工場（日本）	60%	65%	70%	70%
常州工場（中国）	95%	110%	110%	115%
浜松工場（日本）	徐々に生産数量拡大中			

※上記稼働率は3直20日/月を前提に算出



25年比 増収 ↗ 増益 ↗

売上高(億円)



## セグメント業績（前期比）

【2025年実績】

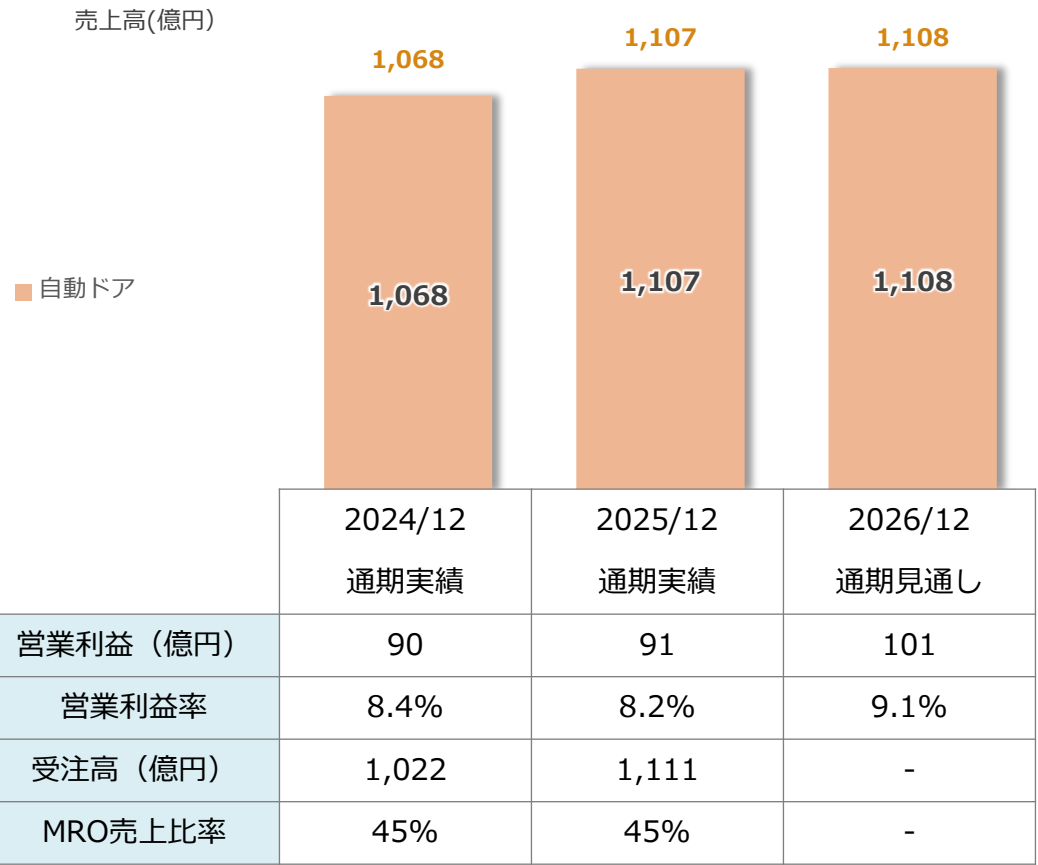
事業	業績実績
鉄道車両用機器	国内外の新車およびMRO需要が好調に推移し増収
航空機器	防衛予算拡大に伴う需要が増加し増収
船用機器	新造船向けおよびMRO需要が好調に推移し増収
商用車用機器	東南アジアの需要低迷も国内の需要が底堅く推移し前年同期並み
営業利益	減損や関係会社整理損を計上するも、前期比増益

【2026年見通し】

事業	業績見通し
鉄道車両用機器	欧州子会社の売却影響と国内の新車が端境期に入ることから減収
航空機器	防衛予算拡大と民間航空機の生産拡大により増収
船用機器	新造船向けおよびMRO需要が好調に推移し増収
商用車用機器	国内の底堅い需要と東南アジアの回復、新製品の拡販で増収
営業利益	増収による増益

※従来の説明資料と事業の説明順が変更になりました。

25年比 並み ➡ 増益 ➡



■ セグメント業績（前期比）

【2025年実績】

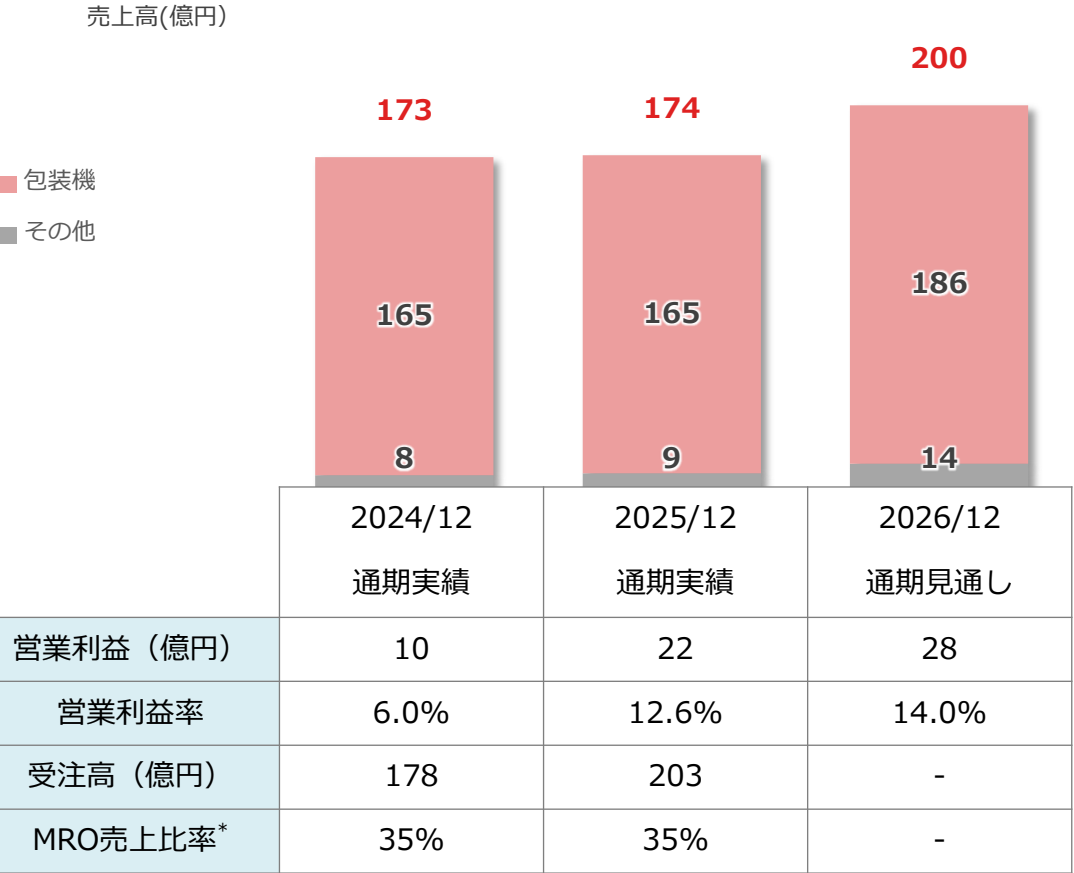
事業	業績
自動ドア	【国内】 再開発案件により新規建物用ドアおよびMROが好調で増収
	【海外】 建物用ドアは堅調
PD※	【国内】 プロジェクトが進行し増収
	【海外】 新規案件の選別受注により減収
営業利益	増収による増益

【2026年見通し】

事業	業績
自動ドア	【国内】 再開発のオフィスビル竣工が一服する見込み
	【海外】 建物用ドアは堅調
PD※	【国内】 プロジェクトが進行し増収
	【海外】 新規案件の選別受注により減収
営業利益	増収による増益

※PD:プラットフォームドア

25年比 増収 ➡ 増益 ➡



\*包装機のみMRO売上比率

セグメント業績（前期比）

【2025年実績】

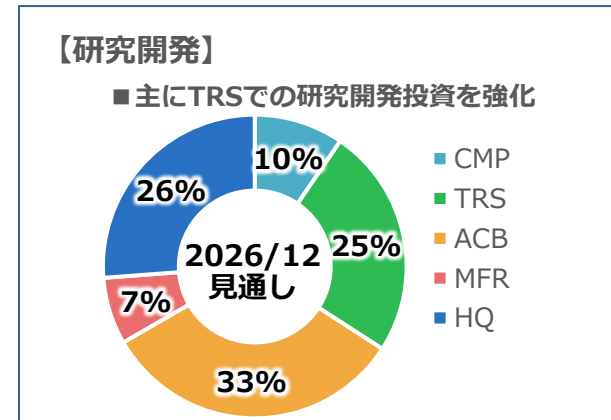
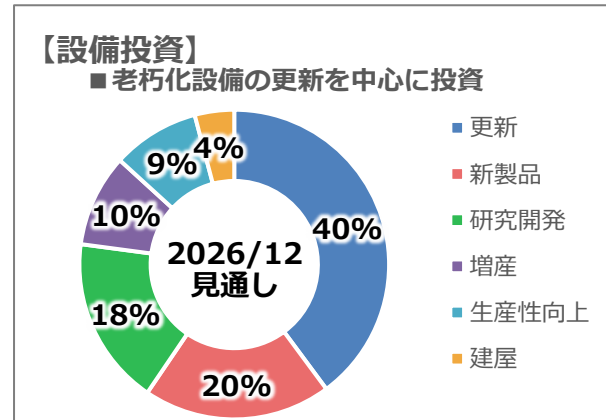
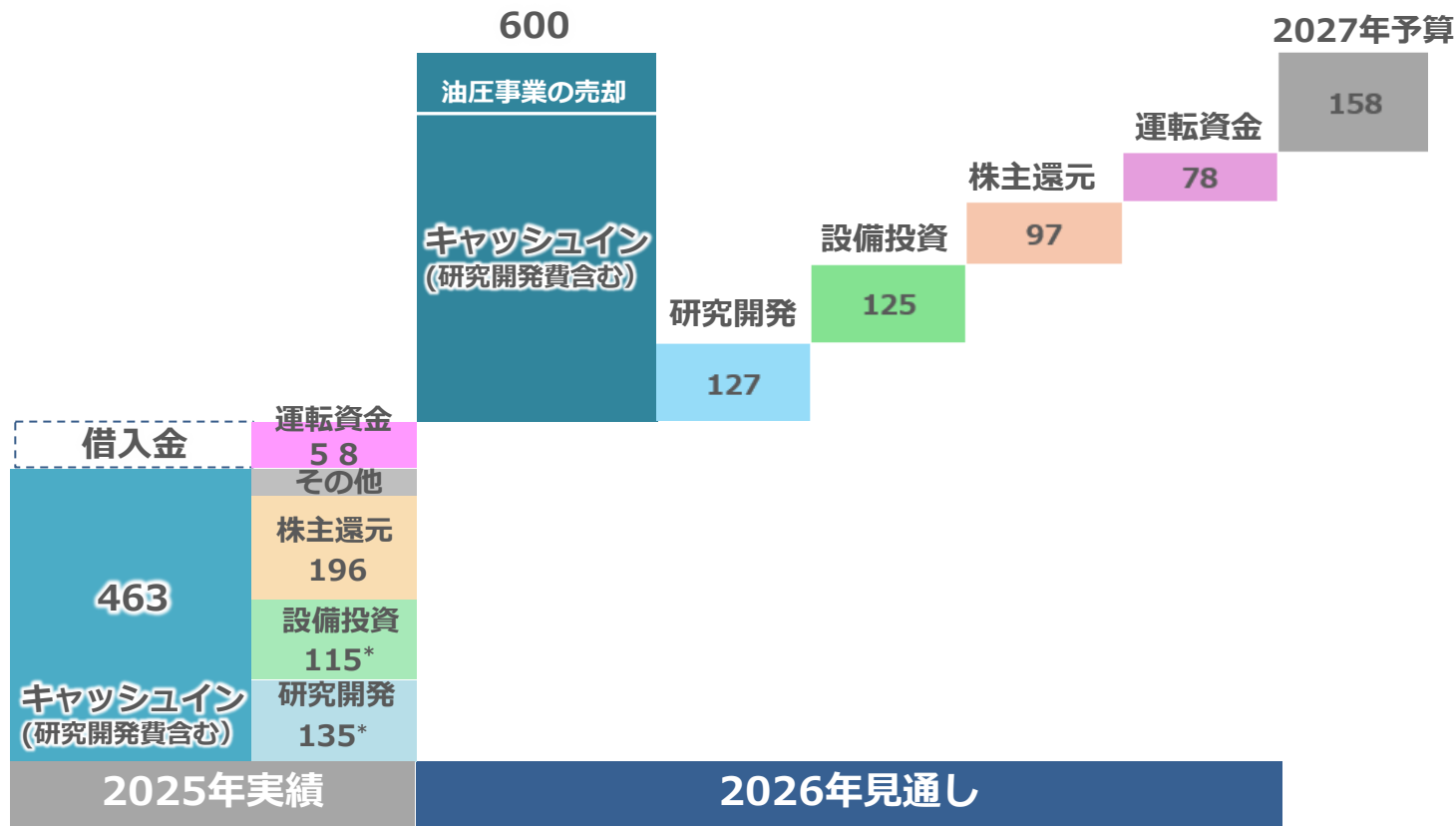
事業	業績
包装機	国内の食品メーカーでの設備更新は堅調も、海外での設備投資需要が停滞し、減収
営業利益	24年2Qに発生した減損損失影響がなくなり増益

【2026年見通し】

事業	見通し
包装機	国内の食品メーカーでの設備更新が堅調であることに加え、海外での設備投資需要も回復し増収
営業利益	増収とMROの効率化により増益

## ■ 中期経営計画のキャッシュアロケーション計画に基づき進捗。引き続き着実な成長投資を実施

(億円)



1,600億円

成長投資等

株主還元  
約300億円～

配当のみの  
進捗率  
64%

+自己株買い  
(100億円)

設備投資  
約450億円

進捗率  
59%

研究開発  
約400億円

進捗率  
65%

運転資金

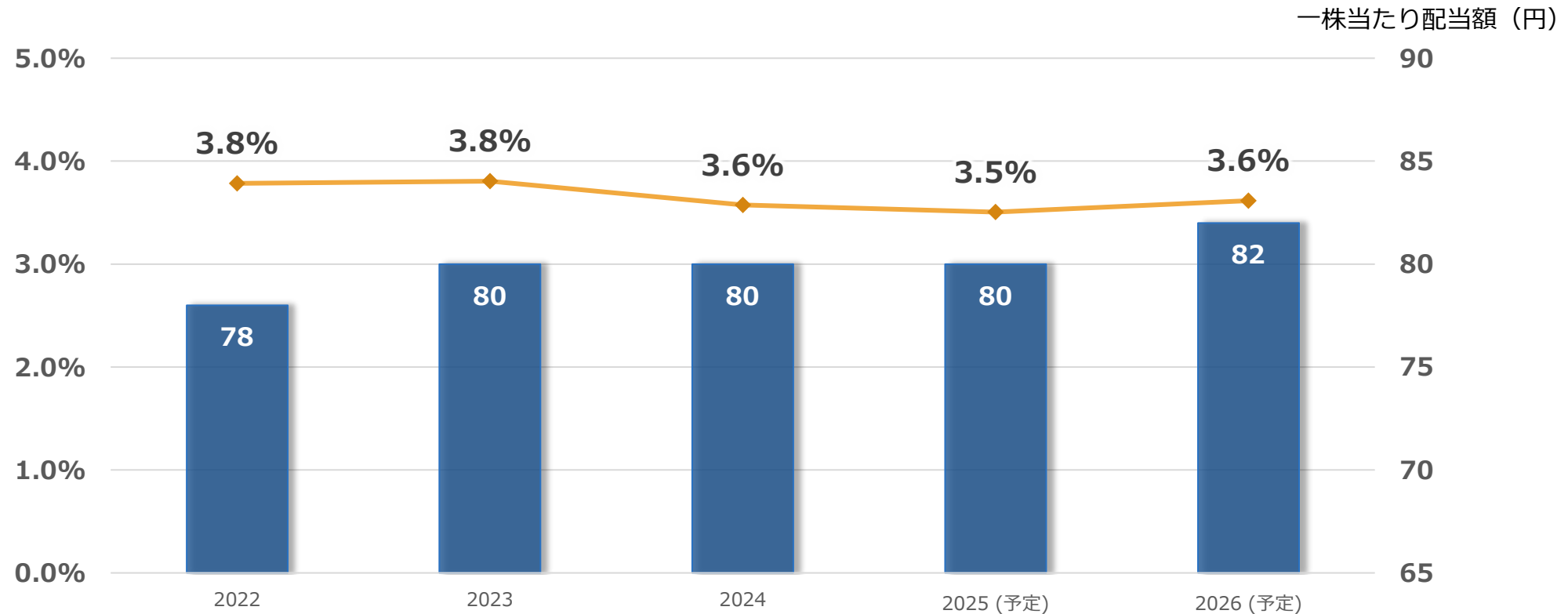
中計3年間の  
キャッシュアロケーション

\*油圧機器含む

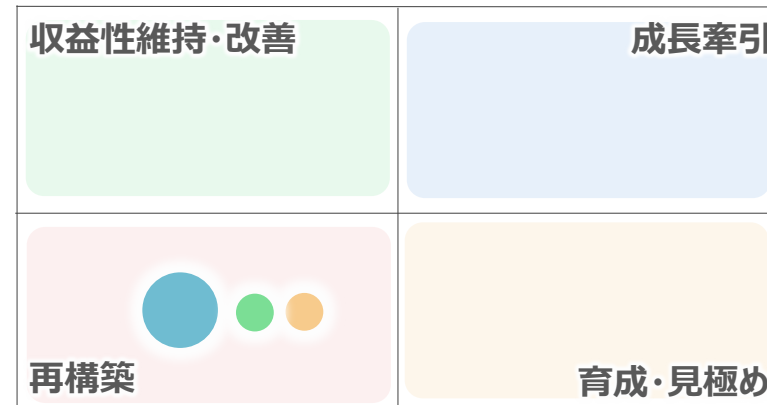


## 株主還元方針

### DOE 3.5%を目安とした安定配当および機動的な自社株買い



# Appendices



● 油圧機器の吸収分割

● 鉄道車両用機器 欧州子会社の売却

● 自動ドア 海外プラットフォームドア縮小

時期	2025/7 非継続事業化 2025/12 吸収分割 2026/1 株式譲渡(70%)	2025/12 譲渡契約締結 2026/2 株式譲渡実行予定	2023/12 スイス子会社GilgenでPDの採算悪化を起因とする減損発生 2024/1 選別受注を開始
背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022年以降中国の建機市況は悪化</li> <li>・ 中国建機メーカーの内製化や中国油圧機器メーカー台頭による競争激化</li> <li>・ インフレによる収益性悪化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ以降、コストが増加し収益悪化</li> <li>・ 欧州大手との競争激化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事期間の延長による人件費等の増加</li> <li>・ インフレによるコスト増加</li> <li>・ 工事進行基準に基づき、長期間為替影響を受ける</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新会社で欧米市場開拓による再成長の実現</li> <li>✓ 持分法利益の取り込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TRSの収益性改善</li> <li>✓ 注力分野であるブレーキ分野へのリソース集中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ACBの収益性安定</li> <li>✓ 欧州ドア事業へのリソース集中によるスイス周辺地域の開拓</li> </ul>

対象会社について TRS (船用機器)

概要 : Deep Sea Technologies Singel Member Private Company (所在 : Athens, Greece、設立:2017年、従業員約90人)  
AIを活用した「最適航路選定 (Pythia) 」や「状態監視 (Cassandra) 」などの船舶向けのソリューションサービスの提供

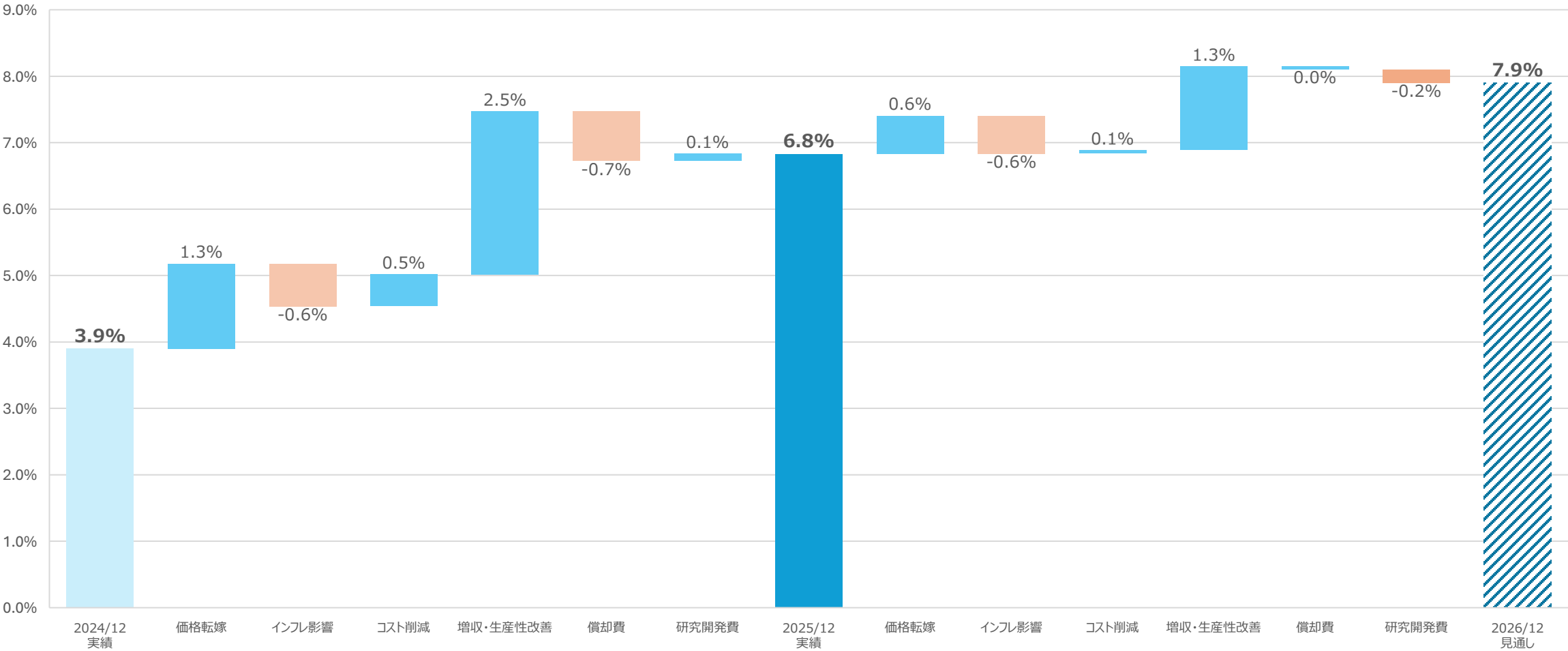
買収時期と金額 : 2023年7月14日、約78億円 (2024/4Q : のれん 26M€ → 2025/4Q : のれん 6M€の減損 → 2026/1Q : のれん 20M€)

買収の経緯 : 2021年7月C.V.Cである、Nabtesco Technology Ventures L.P.を通じてDeep Sea社に少額出資し技術での親和性を見出す。  
Deep Sea社の「最適な航路・船速提案」AIソフトと「船用エンジン制御システム」コンポーネントを組み合わせることにより、船舶の自律運航と省燃費に貢献が可能と判断し、全額出資に引上げ

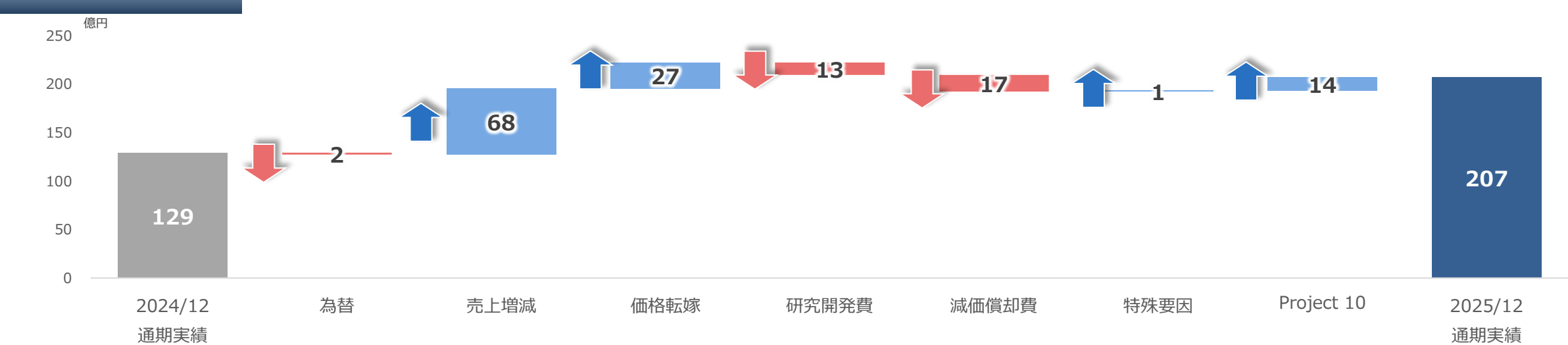
買収時計画との差異 : 買収以降、商品の開発に時間を要し、市場投入時期や上市時期が当初計画より遅れたことによるもの

今後の対策 : 商品開発の加速とTelegraph Agentなどの組み合わせ販売を拡大し、競合に対し競争力を高めた商品投入を行う

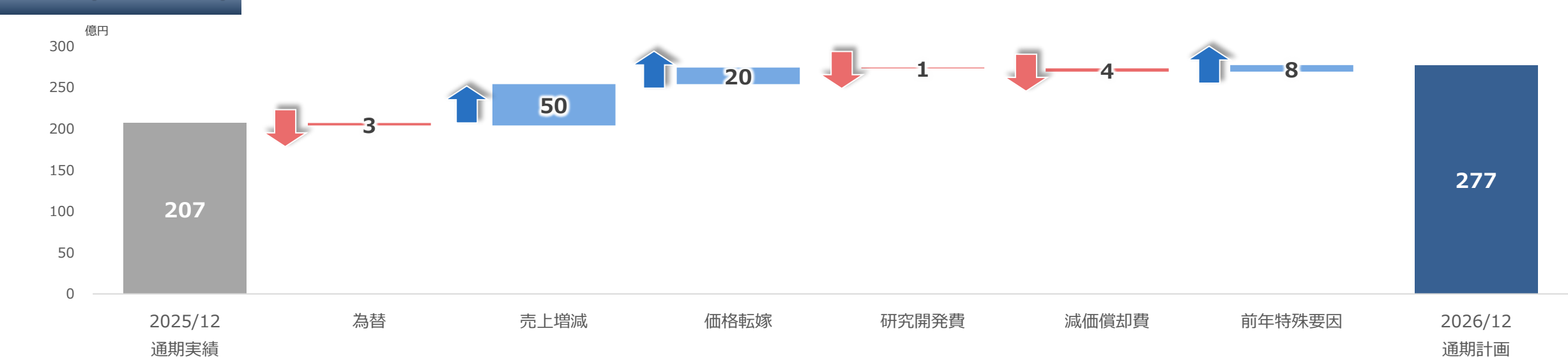
■ 生産性の改善に努め、引き続き価格転嫁も進めていく

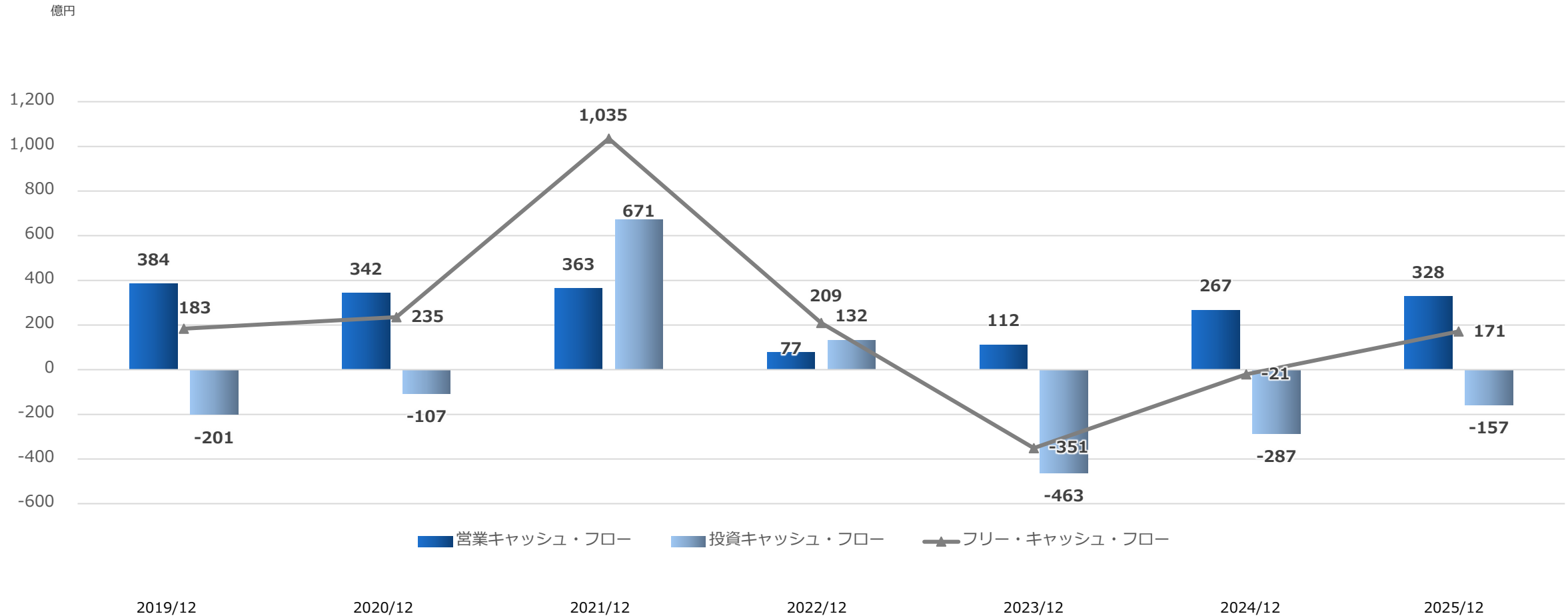


2024年→2025年



2025年→2026年

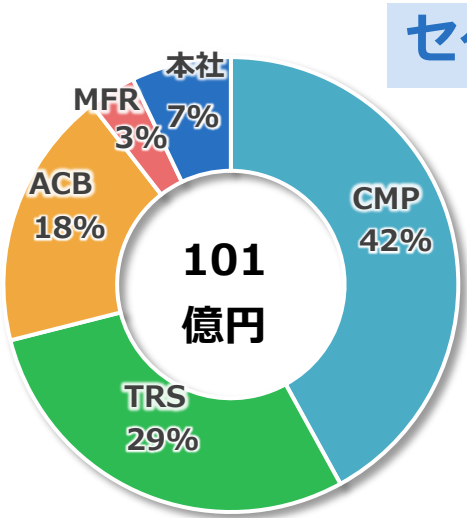




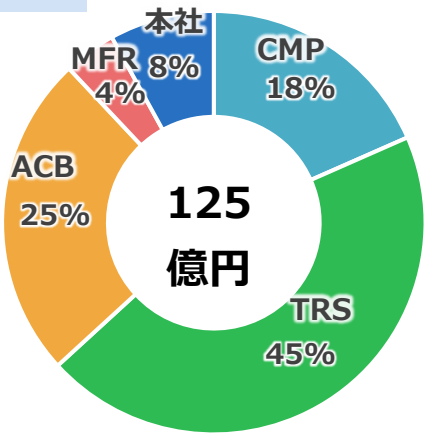


■ 2025年の主な設備投資は精密減速機の浜松工場向け

(単位：億円)	2025/12 通期実績 (A)	2026/12 通期計画 (B)	前年同期比 (B-A)
設備投資額	101	125	24
研究開発費	126	127	1
減価償却費	164	168	4



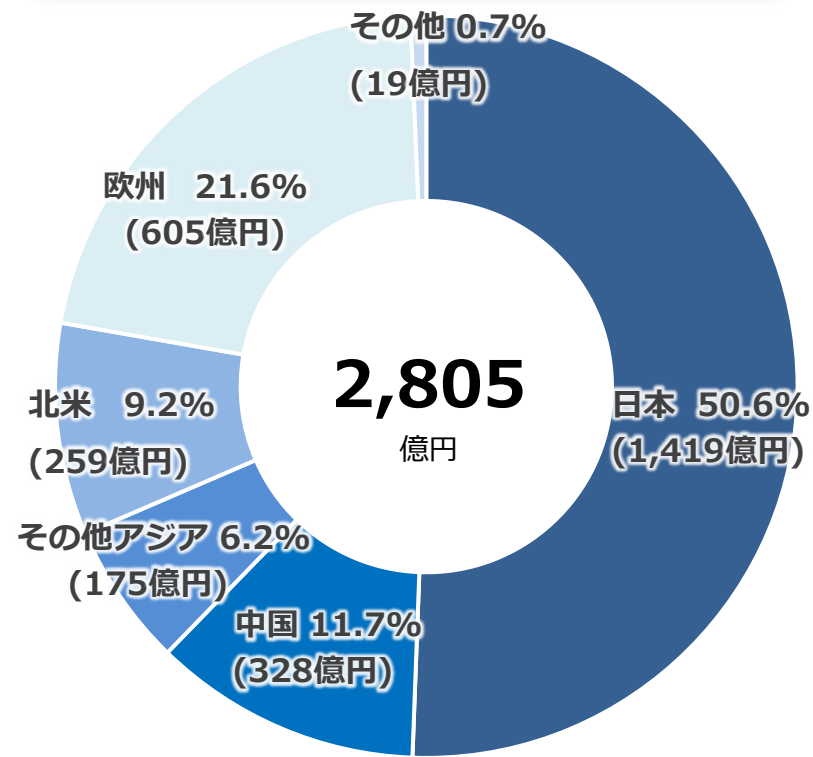
2025/12 通期



2026/12 通期

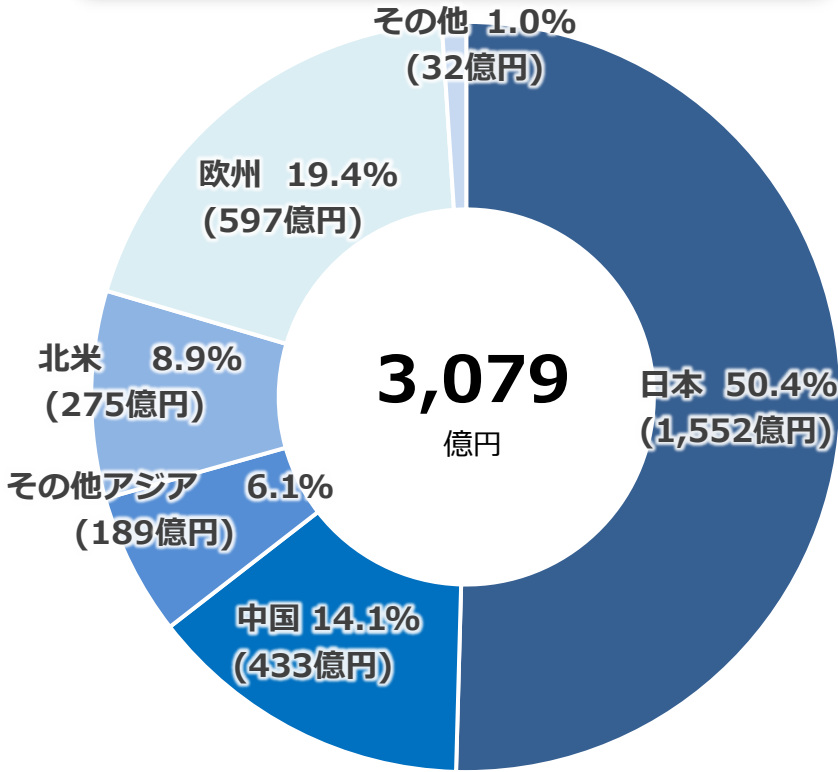
\*上記数値は油圧機器事業を除いた数字です。

2024/12 通期実績



海外売上高	1,386億円
海外売上高比率	49.4%

2025/12 通期実績



海外売上高	1,526億円
海外売上高比率	49.6%

## ■ 為替レート

(単位：円)	2024/12 通期実績	2025/12 通期実績	2026/12 見通し
USD	152.24	149.78	145.00
RMB	21.28	20.94	20.50
EUR	164.36	169.53	170.00
CHF	172.70	181.13	185.00

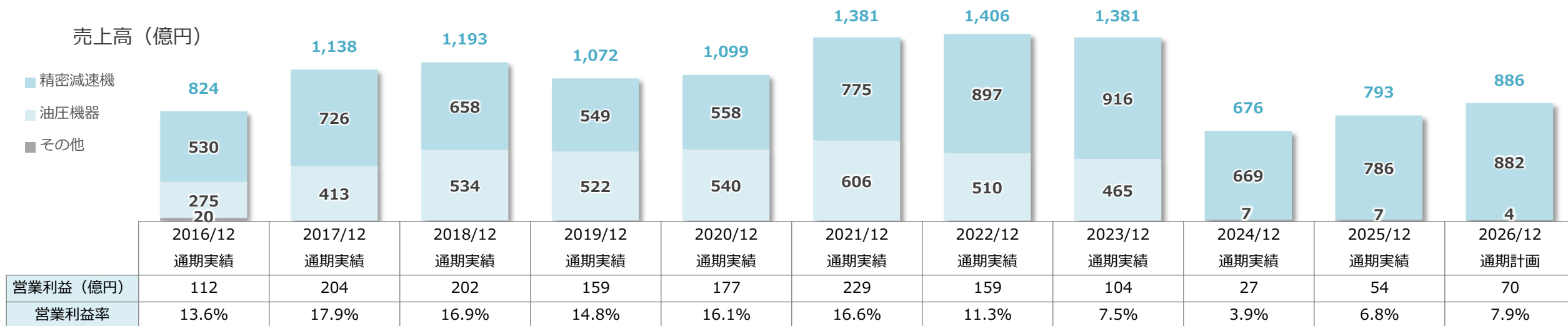
## ■ 為替感応度（為替が1円変動したときの影響額）

(単位：百万円)	2025/12 通期実績	
	売上	営業利益
USD	171	56
RMB	2,409	352
EUR	79	3
CHF	247	3

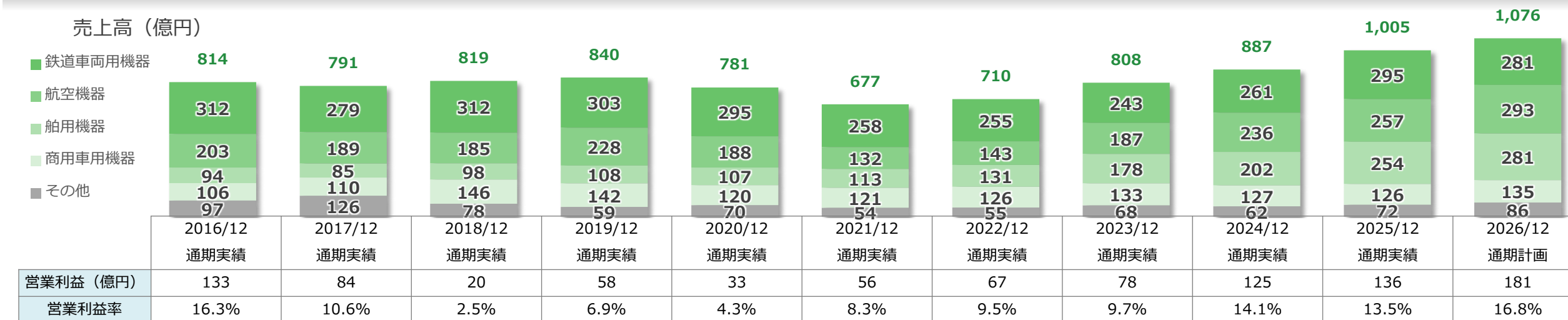
2026/12 見通し	
売上	営業利益
206	46
1,455	221
85	2
254	11

# コンポーネントソリューションセグメント (CMP)

*Innovation In Action*  
Vision 2030



# トランスポートソリューションセグメント (TRS)

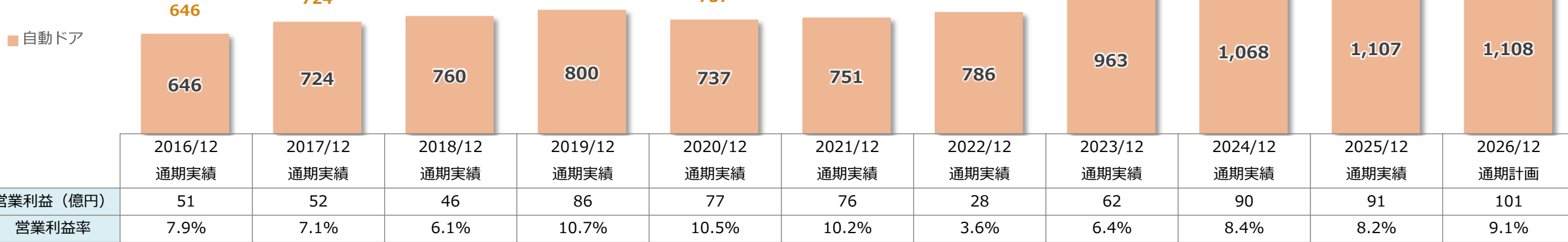


※従来の説明資料と事業の説明順が変更になりました。

# アクセシビリティソリューションセグメント (ACB)

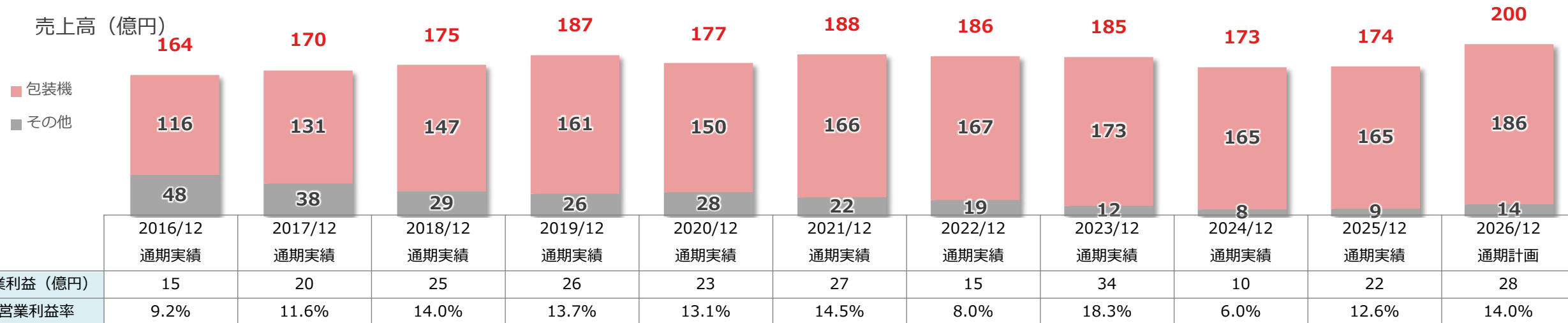
*Innovation In Action*  
Vision 2030

売上高 (億円)



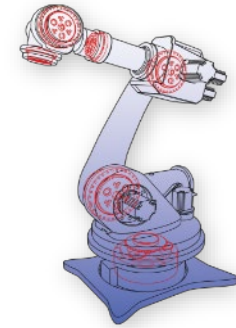
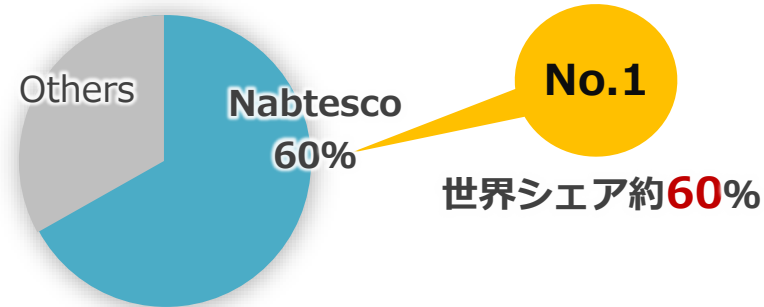
# マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR)

売上高 (億円)



## 精密減速機

### ■ 中大型産業用ロボットの関節用途



### 産業用ロボット以外の用途事例



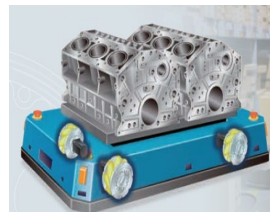
医療用



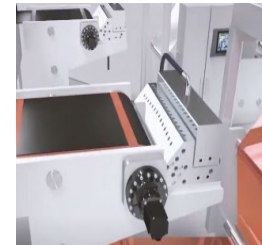
食品用



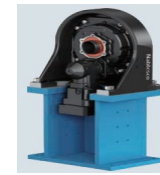
通信用



物流用



バッテリー用



自動化用（ポジショナー向け）

## 主要顧客（敬称略）

### ■ 精密減速機

**産業用ロボット：** ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)

**工作機械：** ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

※油圧機器事業は非継続事業として認識されたため2025年度以降CMPセグメントから除しています。

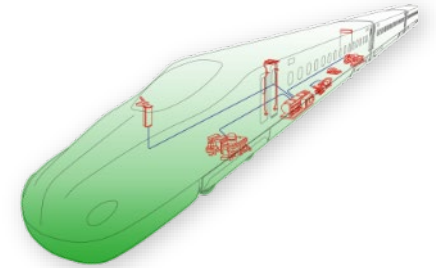
注：シェアは当社推計

## 鉄道車両用機器

### ■ 鉄道車両用ブレーキシステム



### ■ 鉄道車両用ドア開閉装置

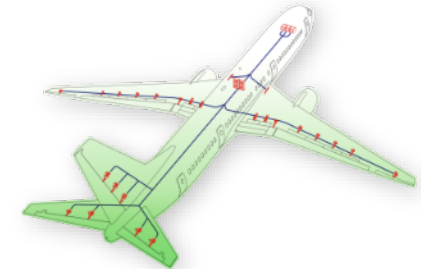


## 航空機器

### ■ フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)



FCAの国産機  
シェア約**100%**



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、日立製作所、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

### ■ 航空機器

Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社



## 商用車用機器

### ■ 商用車用ウェッジチャンバー

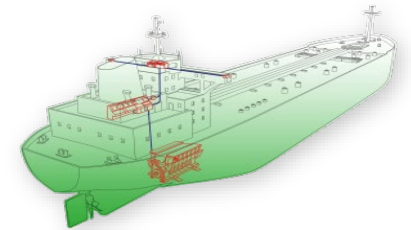
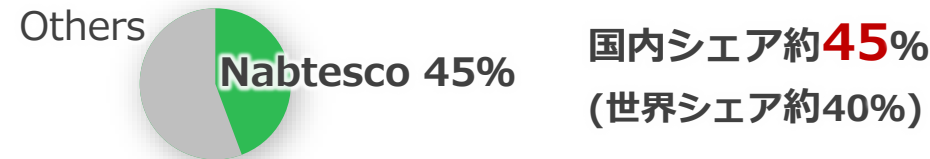


### ■ 商用車用エアドライヤー



## 舶用機器

### ■ 舶用エンジン遠隔制御システム



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 商用車用機器

いすゞ自動車、日野自動車、三菱ふそうトラック・バス、UDトラックス

### ■ 舶用機器

ジャパンエンジンコーポレーション、川崎重工業、マキタ、日立造船マリンエンジン、三井E&S  
HD Hyundai Heavy Industries (韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、Hanwha Engine (韓)

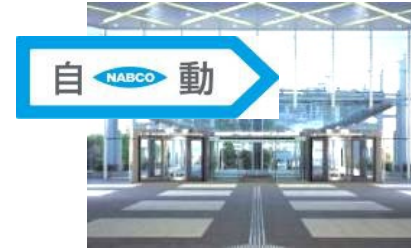
## 自動ドア

### ■ 自動ドア開閉装置



**No.1**

建物用自動ドア  
国内シェア約**60%**  
(世界トップクラス)



## 主要顧客 (敬称略)

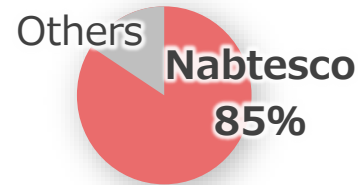
**各種建物用自動ドア**：大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関

**プラットホームドア**：JR・民鉄各社、各国都市交通向け

# マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR) 主要製品

## 包装機

### ■ レトルト食品用充填包装機



**No.1**

国内シェア約**85%**



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 包装機

DM三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

(単位：億円)		2025/12			
		1Q（1-3月）	2Q（4-6月）	3Q（7-9月）	4Q（10-12月）
コンポーネント ソリューション(CMP)	売上高	174	194	207	218
	営業利益	4	15	20	15
	(営業利益率)	2.3%	7.5%	9.9%	7.0%
トランスポート ソリューション(TRS)	売上高	219	246	250	289
	営業利益	33	38	38	27
	(営業利益率)	14.9%	15.6%	15.1%	9.4%
アクセシビリティ ソリューション(ACB)	売上高	282	244	259	322
	営業利益	34	9	20	28
	(営業利益率)	12.0%	3.6%	7.7%	8.9%
マニファクチャリング ソリューション(MFR)	売上高	35	39	43	56
	営業利益	3	4	5	10
	(営業利益率)	8.1%	10.7%	11.1%	18.0%
本社又は消去		-24	-23	-21	-28
連結合計	売上高	710	722	759	887
	営業利益	49	43	62	54
	(営業利益率)	6.9%	6.0%	8.1%	6.0%

\*2025年度の四半期ごとの実績に関しては監査前の数字であるため、今後変更になる可能性があります。

うごかす、とめる。

# Nabtesco

